

## (研究ノート) 情報通信技術と教育開発

—メキシコ都市部におけるテレセクンダリアの事例より—

### ICTs (Information and Communication Technologies) and Education Development: Mexican Telesecundaria in urban areas

高 島 千 秋

The use of TV and one teacher taking charge of all subjects are a principal characteristic of Telesecundaria. This modality was established in 1968 to promote *secondary education in low-populated rural areas where general secondary schools would not be feasible*. In isolated areas, Telesecundaria is almost only option to receive secondary level education. On the other hand, in cities, students can choose another type of schools, like general schools and technical schools. Nevertheless, at present in Mexico City some 6,700 students attend Telesecundaria. Why Telesecundaria is chosen in cities? Does it have special function that is differed from the rural one?

This paper attempts to show the present situation and the role of Telesecundaria in cities, and to evaluate it, based on fieldwork at the 9<sup>th</sup> Telesecundaria station in Mexico City from March to June of 2005. Findings of this paper are as follows; first, Telesecundaria in cities has an original function that receives students who left another secondary schools. This category occupies about half of the total students. Second, the characteristics of Telesecundaria help this type of students to continue studying in secondary schools.

#### はじめに

情報通信技術 (Information Communication Technologies, 以下ICT) は、遠隔地教育、教育の質向上の手段として世界各地で用いられており、主に途上国では教師のトレーニングの手段としても重要な役割を果たしている。また、学校のない農村の居住者や、社会的障壁から教育を受けられなかった女性など、特に歴史的に社会から除外されてきた人達が教育を受けるための道具としても注目されている<sup>1</sup>。ICTという言葉は明確な定義がなされておらず、JICAは電話、インターネット、衛星、コミュニケーションツール、放送、郵便、CD-ROM、DVD、アプリケーションソフトをICTとし、

---

1 Osin, 1998: 2-5; World Bank, 2003: 15-18.

世界銀行は、JICAの定義に加え、新聞、雑誌など紙を媒体とする情報メディアもICTに含めている<sup>2</sup>。このように、パソコン、テレビ、郵便、新聞など情報を伝達したり、通信を行なったりする道具は何でもICTとなり得るが、本稿では、教育の現場で実際に用いられているという観点から、ICTはテレビ、ラジオ、パソコン、インターネット、衛星を指すこととする。

特に取り上げられる例として、伝統的なICTを使用するものでは、中途退学者を対象に中学校教育を行なうブラジルのテレクルソ (Telecurso)、メキシコのテレビ中学校 (Telesecundaria、以下テレセクンダリア) などが挙げられる<sup>3</sup>。さらに、ソロモン諸島のEメールステーションによる遠隔地教育、中学校教育にインターネットを導入しているチリのエンラセス (Enlaces)、アフリカのバーチャル大学 (以下AVU) など、最近では新しいICTも教育現場に導入されている<sup>4</sup>。

本稿で扱うメキシコでは、1965年にイタリアのテレビ学校をモデルにテレセクンダリアがパイロットプログラムとして始められた。人口の少ない遠隔地において中学校教育を普及することを目的に、1968年に正式な中学校教育の一形態と認められた<sup>5</sup>。テレビの高い普及率、直接教育より比較的lowコストで実施できる点に注目し、遠隔地における中学校教師の不足に対応することができるとして開始されたものである。その特徴は、1人の教師が全教科を担当すること、教師の専門性を補うために全ての授業でテレビプログラムを用いることである<sup>6</sup>。テレセクンダリアの教育内容は他の中学校と同様だが、問題集と教科書はテレセクンダリア専用のものが利用される。授業では、約10分のテレビプログラムを通じて要点の説明がなされ、その後教師が補足説明を入れたり、練習問題を解かせたりする。テレビプログラムはラテンアメリカ教育メディア研究所 (Instituto Latinoamericano de Comunicación Educativa) が作成と放映を担当し、現在は衛星で配信されている。

1993年の中学校教育義務化に伴い、テレセクンダリアの就学児童数は大幅に増加している<sup>7</sup>。現在全中学生の約20%がテレセクンダリアに通い、全中学校の半分以上がこの形態を取っているほどである。その7割は山地、高地、島嶼などの遠隔地に位置するが、残り3割は当初の目的とは異なり都市部に存在するものである<sup>8</sup>。メキシコ市のテレセクンダリアは、一般中学校、技術中学校 (以下他形態の中学校) と比べると相対的に少ないものの、49校存在し約6,700人の学生が在籍している<sup>9</sup>。人口の少ない農村部の場合、テレセクンダリアが中学校教育を受けるためのほぼ唯一の選択肢である。しかし、都市部では他形態の中学校に通うことができるにもかかわらず、テレセクンダリアが選ばれている。

2 JICA, 2001: 7, 8; World Bank, 2003: 2.

3 Creed, Perraton, 2001; García, Wolff, Navarro, 2001.

4 詳しくはAVUホームページ (<http://www.avu.org/default.asp>)、高嶋 (2004) を参照のこと。

5 メキシコの中学校は、一般中学校、技術中学校、テレセクンダリアの主に3つに分類される。運営形態は、連邦制、州・自治体制、私立である。

6 テレビプログラムは日本の教育番組のようなものである。

7 1993-94年度から2003-04年度の中学校在籍者の増加率は33.1%、同時期のテレセクンダリアの生徒増加率は、111.5%である。

Estadística Básica del Sistema Educativo Nacional 1993-1994, Principales Cifras, Ciclo Escolar 2003-2004 (SEP) を基に筆者算出。

8 Dirección General de Materiales y Métodos Educativos SEByN-SEP, 2004.

9 Principales Cifras, Ciclo Escolar 2003-2004 (SEP)

テレセクンダリアは、Mayo et al. [1973] の調査に基づき、その高い普及率、教育成果から概して肯定的に評価されてきた<sup>10</sup>。しかし、最近行なわれた農村のテレセクンダリアのみを対象とした調査では、インフラの不備、教育成果の低さなどの問題点が指摘されている<sup>11</sup>。テレセクンダリアの評価は、調査の実施年代、対象地域、対象とした学校の現状などから異なると考えられるが、最近のテレセクンダリアに関する研究は、都市部のテレセクンダリアを主に扱うものではない。

そこで本稿では、都市部のテレセクンダリアの現状、役割を明らかにし、評価をすることを目的とする。特に、都市部においてテレセクンダリアが選ばれる理由、農村部とは異なる都市部のテレセクンダリアの役割を探ることとする。都市部に焦点をあてることにより、新たなテレセクンダリアの役割を見出すことが出来ると思う。なお、仮説として、都市部のテレセクンダリアは、他形態の中学校を中途退学した生徒を受け入れるという独自の役割を担っているという考えを提示する<sup>12</sup>。

具体的には、第1節でテレセクンダリアに関する過去の研究を教育成果の点から概観し、2節では、農村部のテレセクンダリアと比較しながら、都市部におけるテレセクンダリアの現状を明らかにする。3節では、その評価を、現状、役割、教育成果の分析を通じて行なう。

なお本稿で扱う都市部のテレセクンダリアの情報は、筆者が2005年3月から6月にかけて行なったメキシコ市南部のテレセクンダリア9校、3年生16クラスの授業観察、生徒325人に対するアンケート調査に基づいている<sup>13</sup>。参与観察の手法に基づき、消極的参加者 (passive participation) の立場で観察を行ない、成績については独自の調査は行なわず、高等教育 (高校) の評価委員会 (Centro de Evaluación para la Educación Superior) が実施している試験を参考にした。都市部のテレセクンダリアは他形態の中学校を中途退学した生徒の受け皿となっているという仮説に基づき、その影響が最も表れていると考えられる3年生を対象とした。また、調査を行なう際の公共交通機関の利便性から、メキシコ市南部に焦点をあてている。

## 1. テレセクンダリアの評価

テレセクンダリアに関する研究の主なものとして、4つ挙げられる。本節では、各研究の対象地域、調査方法を踏まえ、主にテレセクンダリアの学習成果の評価という点からそれらの研究を概観する。1972年にスタンフォード大学の研究チームは、テレセクンダリアの費用対効果の分析を行なうため、メキシコ市、メキシコ州、イダルゴ州、モレーロス州の4州で、テレセクンダリア、一般中学校に通う3年生 (各1,236人、1,101人) を対象に、学力試験を学期の最初と最後に実施した<sup>14</sup>。

10 Calderoni, 1998; Castro, Wolff, García, 2001.

11 CEE, 2000, 2001a, b.

12 メキシコでは、小・中学校でも学年ごとに進級試験が実施され、試験での落第が中途退学の大きな要因となっているからである (米村, 1986: 55, 56)。

13 ベニート・フアレス区2校、アルバロ・オブregon区1校、イスタバラバ区1校、トラルパン区1校、コヨアカン区2校、マグダレーナ・コントレーラス区1校、ヴェヌステイアーノ・カランサ区1校の計9校。なお、アンケートの質問票を参考資料として末尾に示す。

14 この論文における費用対効果は、生徒一人当たりにかかる設備費、運営費、教材費などの費用と、教育成果、生徒の将来への姿勢 (希望する進路、給料など) という効果である。実施された試験科目は、スペイン語、数学、化学で、教育省の専門家によって作られたものを用いている (Mayo et al., 1973)。

試験の結果から、テレセクンダリアの生徒の方が獲得点数は少し高いが<sup>15</sup>、絶対的な点数レベルでは2つの中学校形態とも同程度の学習成果を挙げていると報告している。そして、貧困、相対的に劣悪な住居、家族環境（両親の学歴など）といったテレセクンダリアの生徒の社会経済的特徴を考慮し、同程度の学習成果を挙げているという結果の重要性を強調している<sup>16</sup>。

次に、Weitzner〔1981〕はテレセクンダリアの4つの要素（教師、生徒、テレビプログラム、教科書）が教育成果に与える影響を評価し、6州のテレセクンダリアの生徒（各学年120人、計360人）を対象に学力試験を実施している<sup>16</sup>。そして、テレセクンダリアの生徒の試験における合格レベルは概して高いと評価しつつも、1、2年生の数学での合格率の低さを指摘している。ただし、学年による合格率の違いはあるものの、州による違い、特に都市であるメキシコ市と他州との間に違いは見受けられなかったと述べている<sup>17</sup>。

一方、CEE（Centro de Estudios Educativos:教育研究センター）〔2000, 2001a, b〕は、ゲレロ州、モレーロス州、オアハカ州、ソノラ州、ベラクルス州、サカテカス州の6州において、国立人口委員会（Consejo Nacional de Población, 以下CONAPO）のマージナリティ指標「中程度」「高い」または「とても高い」に属している人口2500人以下の農村部にあるテレセクンダリアの質の評価を行なっている<sup>18</sup>。そして、テレセクンダリアの生徒が公的に定められている学習目標を達成した割合は大変低く、他形態の中学校の生徒より学習成果は劣っていると報告している。さらに、貧困層の子供はより良い所得層の子供より試験の獲得点数が低く、先住民言語を話す生徒は話さない生徒より大変低い点数しか得ていないと続けている。最後に、テレセクンダリアは、教育の平等を達成できていないのみならず、最も貧しい地域において十分な教育設備が施されず、不平等に運営され、貧困層の子供の社会経済的に不利な状況を再生産し、拍車をかけていると結論付けている<sup>19</sup>。

Estrada〔2004〕では、メキシコ州の郊外にある2つのテレセクンダリアを対象に、授業観察、生徒へのインタビューを行ない、生徒がテレセクンダリアの学習過程の各要素（テレビプログラム、教科書、教師）にどのように関わるかが調査されている。そして、CEE〔2001a〕を踏まえ、不十分な設備のテレセクンダリアが低い点数を得て、それらの学校がテレセクンダリア全体の平均点を下げる要因となっていると指摘している。さらに、テレセクンダリアがそのモデル通りの設備を整え機能したら、生徒の平均点は上がり、一般中学校と同等になると推測している<sup>20</sup>。

最初の2つの研究では、テレセクンダリアの教育成果は概して肯定的に評価されている。調査地域に本研究が対象とするメキシコ市が含まれているが、当時は現在ほどテレセクンダリアが普及し

15 Ibid.: 15.

16 6州の内訳は明記されていないが、メキシコ市も含まれている。数学、スペイン語、社会、理科のテストが行なわれた（Weitzner, 1981）。

17 Ibid.: 142, 149.

18 58校で調査を行ない、全学年5,188人の生徒を対象に数学と読解の試験が実施されている（CEE, 2000, 2001a, b）。CONAPOは、教育、住居、人口密度、所得に関わる9つの指標からマージナリティ（物質的不足）の状況を測定し、最も劣悪な地域からマージナリティ指標を「とても高い」「高い」「中程度」「低い」「とても低い」と位置付けている。

19 CEE, 2001a: 40, 41; 2001b: 50, 51. CEE〔2001a〕では、テレセクンダリアは義務教育の一形態として全ての生徒に教育成果の平等を与えるべきであると主張されている（CEE, 2001a: 5）。

20 Estrada, 2004: 25.

ていなかった。また、当時のテレビプログラムの内容も現在の物とは異なっているため、今日のテレセクンダリアと比較することは難しい。そこで、最近の2つの研究に注目すると、それらの対象地域は農村部または都市郊外である。教育成果の評価は、CEE〔2001a, b〕によれば、テレセクンダリアは教育機会の平等を達成していないのみならず、貧しい地域における生徒の社会的に不利な状況を押し進めている。一方、Estrada〔2004〕は、テレセクンダリアは他形態の中学校と同様の教育成果をもたらすと推測している。CEE〔2001a, b〕はテレセクンダリアの教育成果を否定的に評価しているのに対し、Estrada〔2004〕は総じて肯定的に捉えている。これら相反する評価は、調査対象地域、調査中学校の現状、研究方法の違いから生じていると考える。そこで、次節では本研究の対象である都市部のテレセクンダリアの現状を取り上げる。

## 2. 都市部のテレセクンダリアの現状

筆者の実施したアンケート調査、授業観察に基づき各学校のテレビ、ビデオ、コンピューター室の有無などのインフラ状況と、生徒の年齢、両親の職業、学歴を始めとする生徒の社会的背景を概観する。比較対象として、CEE〔2000〕から適宜農村のテレセクンダリアの現状を用いる。ただし、CEE〔2000〕はCONAPOのマージナリティ指標において「中程度」「高い」「とても高い」の地域に属する農村の学校を対象としている。一方、メキシコ市は同一のマージナリティ指標において「とても低い」に位置している。そのため、メキシコ市の方が基本的な生活状況が良いことは、テレセクンダリアの比較にも表れると推測できる。

### (1) 学校規模とインフラ状況

調査を実施した9校の平均生徒数は148人、1校あたり平均6クラスで構成され、対象とした3年生の1クラス平均は20人である。一番規模の大きい学校は全校生徒約280人、各学年3クラスであるのに対し、一番規模の小さい学校は全校生徒72人、1学年1クラスであった。一般的な傾向として学年が上がるほどクラス、生徒数が少なくなっており、これは留年や中途退学のためと考えられる。

調査対象校ではテレセクンダリアのモデル通り1クラスを1人の教師が担当しており、農村のように1人の教師が同時に複数の学年を担当する例はなかった<sup>21</sup>。担任に加え、校長、レッドエスコラル (Red Escolar) の教師、派遣されている教師などがいるため、1校あたり平均7.4人の教師が働いている<sup>22</sup>。レッドエスコラルは、教育の質向上を目的としたインターネットを用いた学習プログラムで、小・中学校を対象としており、レッドエスコラルのみを担当する専門教師によって授業が行なわれる。学校規模は地域によって異なり、特に低所得層が多く住む大衆的な地域において規模が大きく、公的機関、ショッピングセンターなどがある街中では規模が小さくなっている。ま

21 CEE, 2000: 17.

22 訪問した9校では、校長が担任の職を兼任する例は見られなかったが、教育省の統計によると、メキシコ市のテレセクンダリア18校で校長が担任の職も兼任している。

Estadística Básica del Sistema Educativo Nacional, 2000-2001 (SEP)

た人口の違いから当然だが、都市部のテレセクンダリアは基本的に農村部のテレセクンダリアより規模が大きく、生徒数、教師数伴に多い<sup>23</sup>。

注目すべき点として、調査を行なったテレセクンダリアでは、農村部で報告されているような衛星の受信機、テレビ、生徒や教師のための机いすの不備は見られなかった<sup>24</sup>。基本的にテレセクンダリアのモデル通りの設備が整えられており、全ての生徒が教科書、問題集、ノートを所持し、その他の必要な勉強道具は学校が備えているものをその都度使用している。

教室の状況に関しては、全クラスにテレビがあり、訪問した内の4クラスには2台ものテレビが置かれ、約半数のクラスにはビデオデッキも設置されていた。教室の前方にはホワイトボードないし黒板があり、教科書、勉強道具の収納棚はほぼ全てのクラスに配置されている。壁のペンキがはがれていたり、落書きがあつたりする学校もあつたが、廊下に鉢植えを設置し、落書きのないきれいな学校もあり、設備は同様だが雰囲気には学校間で違いが見られた。

訪問した9校の内8校がパソコン室を持っており、その内の3校がレッドエスコラルを実施していた。ただし、専門の教師の不在、パソコン台数の少なさから、実際にはその内4校ではパソコンが使用されていなかった。不十分な点として、現在利用できる実験室を備えた学校は1校もなく、図書室があるのは1校のみである。実験室、図書室に関しては、場所や経費の制約による設置の難しさを、訪問した学校の数人の教師が指摘していた。農村のテレセクンダリアでは7割の学校が図書室を、約4割の学校が実験室を保有しており<sup>25</sup>、特に都市部における場所の制約を考慮すると、この点に関しては農村のテレセクンダリアの方が良い環境であると考えられる。

テレセクンダリアの設立当初は、教会、労働組合、政党の事務所、個人の家などが教室として使われていた。当時の名残から現在も校舎が以前の用途の建物であつたり、教育省所有ではなかつたりする場合がある。そのため使用できる教室、場所が限られ、1クラスの生徒数が多くなつたり、学校全体の収納棚を実際に授業を行なう教室内に設置したりする問題も存在した。

都市のテレセクンダリアは十分ではないにしろ、テレビを用いて授業を行なうために最低限必要な設備を整えている。都市部では、農村部で報告されているようなテレビの受信ができない、1人の教師が複数の学年を担当するなどのテレセクンダリアのモデルに沿わない大きな問題は見られなかった。農村部の問題を、全てのテレセクンダリアが抱えているわけではないのである。また、上述の問題は、農村部の中でもマージナリティ指標が「とても高い」に位置する地域のテレセクンダリアで顕著であり、そのような地域では他の中学校に通うという選択肢もない<sup>26</sup>。CEE〔2000:38〕の指摘にもある通り、十分な設備が一番必要とされる地域のインフラが最も不十分であり、地域間格差のある不平等な状況が認識できる。

23 農村部のテレセクンダリアでは1学校平均62人、一番小さい学校は8人しか在籍しておらず、70%の学校で各学年1クラスしかない（CEE, 2000: 16）。

24 CEE, 2000: 27.

25 CEE, loc.cit.

26 CEEが調査した学校の内、1人の教師が複数の学年を担当する例の40%がマージナリティ指標「とても高い」の地域に位置し、テレビの受信が出来ない学校（全体の15%）全てがマージナリティ指標「高い」または「とても高い」の地域に存在した（CEE, 2000: 17; 2001a: 20）。

## (2) 生徒の社会経済的背景

調査を行なった3年生の生徒の平均年齢は15.5歳、一番年齢の低い生徒は13歳、高い生徒は18歳であった。現在所属している中学校への平均入学年齢は13.5歳で、入学年齢に関しては11歳から17歳まで開きがあり、これは約半数の生徒がテレセクダリア入学以前に、別の中学校で学習した経験を持つためと考えられる。

父親の職業に関して、小売・自営業（板金職人、大工、研磨工、タイル職人など）の割合が一番多く全体の20%に達する。次に工場労働者・機械工などの産業従事者（15%）と続き、少数ながら公務員・建築家などの専門家（7%）、会社員・事務員（7%）も存在している。また、無回答、父親がいない、無職、退職しているといった回答も全体の28%にのぼる。母親の半数が主婦で、料理人・家政婦・用務員・清掃員などサービス業従事者は13%を占める。その他の職業に従事している母親は何れも少なく、小売・自営業8%、会社員・事務員6%、秘書5%、教師・公務員・看護婦などの専門家5%という状況である<sup>27</sup>（表1参照）。

表1

両親の職業	父親	母親
	人数・割合	人数・割合
専門家	22 ( 7%)	16 ( 5%)
秘書	0 ( 0%)	16 ( 5%)
工場労働者	49 (15%)	15 ( 5%)
会社員・事務員	20 ( 6%)	20 ( 6%)
小売・自営業	65 (20%)	27 ( 8%)
主婦	0 ( 0%)	164 (50%)
サービス業	77 (24%)	41 (13%)
その他	92 (28%)	26 ( 8%)
合計	325 (100%)	325 (100%)

注) サービス業は、父親の場合タクシー・バスの運転手、警察・警備員など、母親では、料理人、家政婦、清掃員などである。  
 その他は、無回答、父親・母親がいない、無職、退職などの回答を含む。  
 出典) アンケート調査を基に筆者作成

約7割の父親が小学校を卒業（就学年数6年以上）しており、中学校卒業（就学年数9年以上）の割合は51%にのぼる。大学院を出た父親もごく少数ながら存在し、彼らも含めた7%が大学を卒業している。一方小学校中退、学歴なしという答えも7%に達した。父親と比べると、母親の方が小学校卒業以上の割合が高く、母親全体の75%に上った。約半数（51%）の母親が中学校卒業以上の学歴を有し、その内訳は、中学校卒業32%、高校卒業14%、大学卒業以上3%となっている。また小学校中退、学歴なしという答えも7%を占めた（表2参照）。

27 農村の場合、父親の職業は、農業従事者（70%）、工場・事務所・商店・修理工場などの従業員（15%）、自営業（12%）と続き、専門家は全体の2%しかいない。母親は、主婦（85%）、工場・事務所・商店・修理工場などの従業員（6%）、自営業（4%）、農業（3%）と続いている（CEE, 2000: 9）。

表 2

両親の学歴	父親	母親
	人数・割合	人数・割合
小学校卒業	56 ( 17%)	80 ( 25%)
中学校卒業	88 ( 27%)	104 ( 32%)
専門学校卒業	5 ( 2%)	7 ( 2%)
高校卒業	51 ( 16%)	45 ( 14%)
大学卒業以上	23 ( 7%)	10 ( 3%)
小学校中退・学歴なし	22 ( 7%)	23 ( 7%)
無回答・知らない	54 ( 17%)	18 ( 6%)
その他	26 ( 8%)	38 ( 12%)
合計	325 (100%)	325 (100%)

出典) アンケート調査を基に筆者作成

全体の2割の生徒が、放課後何らかの仕事に従事していると返答しており、その内スーパーの袋係りに従事している割合が一番高い(22%)<sup>28</sup>。次いで機械工・工具などの産業従事者(15%)、小売(10%)と続き清掃・手伝い・引越し・ウエイターなどその他が34%を占めた。仕事の形態は様々だが農村のテレセクンダリアでは、約半数の生徒が働いていると報告されている<sup>29</sup>。都市のテレセクンダリアの場合、実質働いている生徒が16%と考えると、都市の生徒の生活状況は大変困窮しているというわけではないと推測できる<sup>30</sup>。

生徒の主な通学手段はバス、徒歩または自家用車である(各47%、36%、13%)。約8割の生徒が30分以下で通学しており、大部分の生徒は学校の近くに住んでいると判断できる。ただし、1時間以上かけて通学する生徒もわずかながら存在しており(3%)、彼ら全てが以前は他の中学校で勉強していた。

生徒は基本的に制服を着用し、体育のある日はジャージで登校している。大部分の男子生徒は一般的なメキシコ人男性同様髪をジェルでかためており、身嗜みには気を使っている様子であった。お化粧をしている女子生徒も各クラス数人だけが見られ、性別を問わず多くの学生がブレスレット、ネックレスなどのアクセサリーを身に付けていた。各自の好みに基づき制服を着こなし、その風貌は一般中学校、技術中学校などに通う生徒と変わりはなかった。

テレセクンダリアの生徒は貧しいと数人の教師が指摘していた。そもそもテレセクンダリアは当初から貧しい地域に作られており<sup>31</sup>、その周辺に住む生徒は都市の他形態の中学校に通う生徒より貧しいと推測できる。ただし、生徒の社会経済的背景から都市のテレセクンダリアの生徒は、農村部のテレセクンダリアの生徒より裕福であると考えられる。また、中学校に通うことができ、その

28 袋係りの仕事はスーパーで客の買った商品を袋に詰めることである。

29 CEE, 2000: 11.

30 巻末資料アンケート項目19の「放課後何らかの仕事(trabajo)をしているか。」という問いに対し、22%が「はい」を選択していた。しかし、仕事内容の問いに関して、その内19%が家事手伝い、宿題をしている、何も仕事はしていないと答えており、実質彼らを除いた全体の16%が金銭を得る仕事に従事していると考えられる。

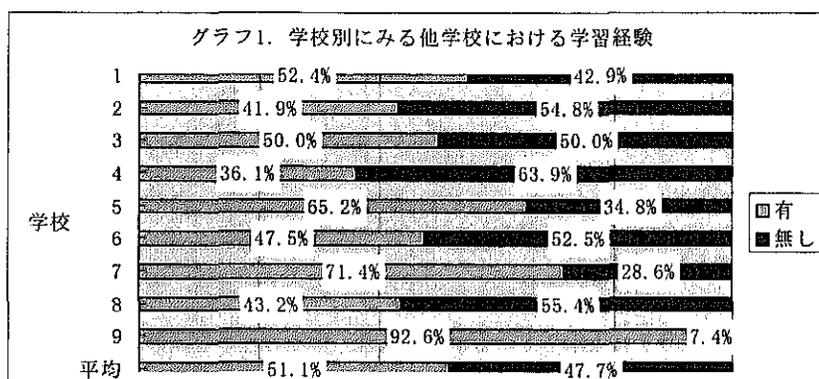
31 Mayo et al., 1973: 9.

内約2割しか放課後に働いていない点、約1割の生徒が車で通学している点、身嗜みは他形態の中学校の生徒と変わらない点を考えると、テレセクンダリアの生徒は都市部の最貧困層に属しているわけではないと判断できる<sup>32</sup>。

### 3. 都市部におけるテレセクンダリアの評価

#### (1) 役割

都市におけるテレセクンダリアは、他の中学校を何らかの理由で中途退学した生徒を受け入れているという仮説の下、他の中学校への通学経験の有無を調べた<sup>33</sup>。その結果、全体の約半数（51%）の生徒が、現在就学しているテレセクンダリア入学以前に他の中学校で勉強していたことが明らかになった。学校によってこの割合には隔たりがあり、ある学校では大部分の生徒（93%）が別の中学校での学習経験を持つ一方、別の学校では6割以上の生徒が最初からテレセクンダリアに入学していた（グラフ1参照）。この違いは、学校の所在による違いから生じていると考える。他の中学校での学習経験を持つ生徒の割合が6割以上の学校3校の内、2校はメキシコ市南部の中心ベニート・ファレス区にあり、比較的どの地域からも通学しやすい所に位置している。



出典) アンケート調査を基に筆者作成

他の中学校に就学していた生徒が通っていた中学校形態は、一般中学校が一番多く（48%）、次いで技術中学校となっており（24%）、この2形態が大部分を占めている。注目すべき点として、以前別のテレセクンダリアで勉強したり（4%）、一般中学校と技術中学校、私立中学校と一般中学校など2つの中学校に通ったりした生徒の存在が挙げられる（4%）。彼らの大多数は成績や素行が悪いために<sup>34</sup>、以前就学していた中学校を退学させられ、現在テレセクンダリアで勉強している。

32 社会開発省 (Secretaría de Desarrollo Social) は、最貧困層を最低限の栄養を摂取するために必要な食料を得る所得しかない世帯と定義している。(http://www.sedesol.gob.mx/subsecretarias/prospectiva/medicion\_pobreza/Nota\_tecnica\_pobreza\_2002.pdf)

33 巻末資料アンケート項目15参照

34 成績は試験の結果と、授業への取り組みなどにより総合的に判断される。

他の中学校で勉強した経験を持つ生徒の父親と、最初からテレセクダリアに入学している生徒の父親を比べると、前者の方が高校卒業以上の割合が高い（25%、19%）。同様に他の中学校で勉強した経験を持つ生徒の母親の方が、高校卒業以上の割合が高くなっている（21%、12%）。また、以前他の中学校で勉強していた生徒の方が、自家用車で通学する率が高く（17%、9%）、奨学金の受給率は低い（5%、14%）。これらの点から、他の中学校で勉強した経験を持つ生徒の方が、最初からテレセクダリアに入学した生徒より所得レベルが高いと推測できる。

次に、テレセクダリアの入学理由に関して、以前別の中学校で勉強していた生徒の場合、他の中学校で落第したからという答えが一番多く（28%）、学校の近さ（27%）、一人の教師が全ての教科を担当する点と続いている（11%）。入学理由の問いに対して「その他」を選択し、答えの自由記入欄に他の中学校を退学させられたからと答えた生徒を加えると、他の中学校で勉強した経験を持つ生徒の実に37%が、落第や退学を理由にテレセクダリアに入学している（表3参照）。

表3

テレセクダリアへの入学理由	生徒全体	以前他学校で勉強していた生徒	最初からテレセクダリアの生徒
	人数・割合	人数・割合	人数・割合
家が近いから	95 (34%)	37 (27%)	57 (40%)
教育費が安いから	33 (12%)	8 (6%)	24 (17%)
テレビが利用されているから	9 (3%)	3 (2%)	6 (4%)
1人の教師が全教科担当するから	37 (13%)	15 (11%)	22 (15%)
他の学校で落第したから	40 (14%)	39 (28%)	1 (1%)
その他	68 (24%)	36 (26%)*	32 (23%)
合計	282 (100%)	138 (100%)	142 (100%)

注) 設問の性質上無効回答が多かったため、合計が他の設問と異なっている。

\*この内12人（33%）の生徒は他学校を退学させられたためと答えている。

出典) アンケート調査を基に筆者作成

最初からテレセクダリアに入学している生徒の場合、学校の近さを入学理由に挙げた生徒が一番多く（40%）、次に経済的理由<sup>35</sup>（17%）、1人の教師が全ての教科を担当する点となる（15%）。学校の近さを選択した生徒の7割が徒歩で通い、約9割が通学時間も15分以下であることから、学校の大変近くに住んでいると判断できる。この点に関して、他の中学校で勉強した経験を持ち、学校の近さを入学理由に挙げた生徒の場合、約4割はバスで、約2割は自家用車で通学し、4割弱は通学に15分から30分かかっている。同様に学校の近さを入学理由に挙げていても、学校の近距離に住んでいる割合は、最初からテレセクダリアに入学している生徒の方が高いと推測できる。

テレセクダリアの選択理由は大きく分け、学校の近さ、他の中学校の落第である。自宅から近い中学校を選択することは一般的なことであると考え、都市部のテレセクダリアに特出した役割として、他の中学校を落第した生徒に中学校教育を与えるという点が挙げられる<sup>36</sup>。約半数の

35 一般中学校の場合、全教科の教科書を購入する必要があるが、テレセクダリアでは、教科書は貸与され、問題集を購入するだけでよい。

生徒がテレセクンダリアに入学する前に他の中学校で勉強しており、2つの中学校で勉強した経験を持つ生徒も存在することから、テレセクンダリアが中学校教育を受ける最後の皆であると解釈できる。その要因としては、テレセクンダリアは他形態の学校と比べて容易に生徒を退学させたり、落第させたりすることはできないという教師の声もある。

さらに、他形態の中学校と比べて特出すべき需要として、1人の教師が全ての科目を教える点、経済的側面がある。特に、1人の教師が全ての科目を教えることに関しては、テレセクンダリアの魅力として35%の生徒が指摘しており、注目すべき点である<sup>36</sup>。

## (2) 教育成果

高等教育のための評価委員会 (Centro Nacional de Evaluación para la Educación Superior) がメキシコ市において高校への進学を希望する中学生に対して行なう入学試験の結果と、テレセクンダリアの卒業率を通じてテレセクンダリアの教育成果を探る<sup>38</sup>。試験結果に関して、全教科の総合平均点でテレセクンダリアは全体より5.57点低く、一番平均点の高い技術中学校と比べると6.83点も低くなっている。他形態の中学校と一番得点差のある倫理 (Formación Cívica y Ética) では、総合平均より7.64点も低く、一番得点差の小さい数学でも1.47点低いという結果である。この試験結果により、テレセクンダリアと他形態の中学校との間の格差が浮き彫りにされている。

テレセクンダリアの卒業率は79.4%、一般中学校は78.8%で、テレセクンダリアの方が高くなっている<sup>39</sup>。また、3年生の試験の合格率はテレセクンダリア全体では92%、メキシコ市のテレセクンダリアは88%、一般中学校は79%、技術中学校は77%であり、テレセクンダリアの方が他形態の中学校より合格率も高い<sup>40</sup>。ただし、3年生での試験の合格率の低い技術中学校が、高校の選抜試験では一番高い成績を修め、試験の合格率の高いテレセクンダリアが選抜試験では一番低い成績である。これは、技術中学校では厳しい合格基準を設けているため教育成果が高く、テレセクンダリアの合格基準は低いいため、教育成果も低くなっているとも推測できる。

Reimers [2000] によれば、教育機会を次の5段階に分けることができる。1段階は教育の最初の段階に入ること。2段階は最初の段階の学習を通じて、今後学校で勉強を続けるために必要な認知的、社会的能力を身に付けること。3段階は各教育段階を終えること。4段階は各教育段階を終えた時に、得た知識、能力が他の学生と同等であること。5段階は学校で学んだことが他の社会的、

36 テレセクンダリアにおける他の中学校を中途退学した生徒や、他の中学校に入学できなかった生徒の存在は指摘されている (Mayo et al., 1973: 20; Estrada, 2004: 23)。しかし、彼らのテレセクンダリア全体に占める割合、属性に関する具体的な調査はなされていない。

37 巻末資料アンケート項目17参照

38 2003年度のメキシコ市中心部における高校入学試験 (Concurso de Ingreso a la Educación Media Superior de la Zona Metropolitana de la Ciudad de México) の主な受験者は、一般中学校、技術中学校、テレセクンダリアの生徒 (各173,414人, 76,615人, 8,263人) で、試験科目は言語能力、スペイン語、歴史、地理、倫理、数的能力、数学、物理、化学、生物である。

39 Castro, Wolff, García, 2001: 50.

40 Estadística Básica del Sistema Educativo Nacional, fin de cursos, 2002-2003 (SEP) を基に筆者算出。試験は国の基準に基づいているが、内容は他形態の学校と異なる。

経済的機会を得るために役立つことである<sup>41</sup>。Reimersのモデルを用いてテレセクンダリアの教育成果を評価すると、都市部のテレセクンダリアは他形態の中学校との差から、4段階の教育機会を与えるには至っていない。しかし、1、2段階に留まっていたであろう生徒を、3段階にまで引き上げている。そして、次の教育段階(高校)において4段階へと昇る機会を与えていると解釈できる。

換言すると、都市部のテレセクンダリアは、他の中学校を落第した子供達に対して、放置すれば広がり続ける格差を、縮めないまでも一層広がり続けるのを防いでいると考える。CEE〔2000, 2001a, b〕が扱っている農村の例とは異なり、都市のテレセクンダリアは、他形態の学校に通う生徒、より良い所得層の生徒との間にある社会経済的格差を広げていないと判断する。実際に、他の中学校を退学した後、テレセクンダリアに入学した生徒の63%が、中学校卒業後、高校、専門学校で勉強することを希望しており、テレセクンダリアがなければ彼らはその機会を得ることは難しいと思われる<sup>42</sup>。

## 結び

以上見てきたように、本稿ではテレセクンダリアの新たな役割を見出すために、都市部のテレセクンダリアを対象とし、インフラ状況、生徒の社会経済的背景などの現状、その役割を明らかにし、教育成果を評価してきた。なお、都市部のテレセクンダリアは、他形態の中学校を中途退学した生徒を受け入れる役割を担っているという仮説の下、議論を進めた。

その結果、都市部のテレセクンダリアは、基本的にテレセクンダリアのモデル通りの授業を可能にする設備を有していること、生徒の約半数が入学以前に、他の中学校で勉強していたことが明らかになった。これまでテレセクンダリアは、遠隔地に比較的低コストで、中学校教育を普及する手段として注目されてきたが、本稿を通じて他形態の中学校を退学した生徒に、中学校教育を受け続ける機会を与えるという新たな役割が確認された。

テレビプログラムに関して、各授業の要点が示される、明確な説明がなされる、情報源となるという利点が報告されている。他形態の中学校で勉強した経験を持つ生徒が、テレセクンダリアでは、テレビプログラム、教師の説明、専用の教科書があり、他形態の中学校より理解が容易になると言及している<sup>43</sup>。また、これまで余り関心が払われていないが、テレセクンダリアの利点として1人の教師が全ての教科を担当する点がある。1人の教師が全教科を担当することにより、教師は生徒を把握し易くなる。生徒からみれば、多数の教師に慣れる必要がない<sup>44</sup>。さらに、筆者の行なった授業観察から、特に集中力に乏しく騒がしいクラスにおいて、テレビプログラムは生徒の注意をひきつける役割も果たしていると感じられた。これらの点が、他形態の中学校を落第した生徒や何らかの問題を抱えた生徒が勉強を続けるために有利に働いていると思われる。中途退学率の高さはラ

41 Reimers, 2000: 142.

42 巻末資料アンケート項目20参照

43 Estrada, 2004: 21, 23.

44 Ibid.: 23.

テンアメリカの教育が抱える共通の問題であり、その対処方法の1つとしてテレセクンダリアのような教育形態が想定できると考える。

これまで指摘されている通り<sup>45</sup>、本稿でも農村部のテレセクンダリアと都市部のテレセクンダリアに存在する格差、さらに都市部のテレセクンダリアと他形態の中学校との差が明らかになった。教育現場には幾層にも重なる構造的な格差が存在しており、教育機会の増加を目指すのみではなく、いうまでもなく教育の質の改善が必要である<sup>46</sup>。

本稿では、都市部のテレセクンダリアの成績に関わる要素の詳細な分析、農村部、都市部を含めたテレセクンダリア全体の評価を行なうことはできなかった。それらの点を扱うことは、今後の課題である。

## 参考文献

### 外国語文献

- Calderoni, J. (1998), "Telesecundaria: Using TV to Bring Education to Rural Mexico", *Education and Technology Technical Notes Series*, vol.3, no.2, online,  
[http://www.worldbank.org/html/extdr/educ/edu\\_tech/edutech.htm](http://www.worldbank.org/html/extdr/educ/edu_tech/edutech.htm)
- Castro, C. M. (2001), "Brazil's Telecurso 2000: The Flexible Solution for Secondary School Equivalency", García, Wolff and Navarro (2001) (eds.), pp.53-56.
- Castro, C. M., Wolff, L. and García, N. (2001), "Mexico's Telesecundaria: Bringing Education by Television to Rural Area", García, Wolff and Navarro (2001) (eds.), pp.47-52.
- Centro de Estudios Educativos (2000), "Primer Informe de Resultados del Proyecto: Evaluación de la Calidad de la Telesecundaria en Zonas Rurales Marginadas", México, mimeo.
- \_\_\_\_\_ (2001a), "Segundo Informe de Resultados del Proyecto", México, mimeo.
- \_\_\_\_\_ (2001b), "Informe Final de Resultados del Proyecto", México, mimeo.
- Creed, C. and Perraton, H. (2001), "Distance Education in the E-9 Countries", UNESCO, online,  
<http://unesdoc.unesco.org/images/0012/001231/123157e.pdf>
- Dirección General de Materiales y Métodos Educativos-SEByN-SEP, (2004), "Situación Actual de la Telesecundaria Mexicana", *Revista Educación 2001*, no.111, México, SEP, pp.27-32.
- Estrada, R. Q. (2004), "Telesecundaria", *Revista Educación 2001*, no.111, México, SEP, pp.16-26.
- García, N., Wolff, L. and Navarro, J. C. (eds.) (2001), "Making Technology Work for Education in Latin America and the Caribbean", Sustainable Development Department, Inter-American Development Bank.
- JICA. (2001), "The Information Revolution in Development Assistance Executive Summary", online,  
[http://gwweb.jica.go.jp/km/km\\_frame.nsf](http://gwweb.jica.go.jp/km/km_frame.nsf)
- Mayo, J. K. et al. (1973), "La Telesecundaria Mexicana: un Análisis de Costo-Efectividad", E. U.,

45 Mayo et al. [1973: 24] は都市と地方の差、CEE [2001a: 10; 2001b: 27] は各地域のマージナリティ状況による教育成果の違いを指摘している。

46 三輪, 2001: 21-33.

Institute for Communication Research, Stanford University.

Osin, L. (1998), "Computers in Education in Developing Countries: Why and How?", *Education and Technology Notes Series*, vol.3,no.1, online,

[http://www.worldbank.org/html/extdr/educ/edu\\_tech/edutech.htm](http://www.worldbank.org/html/extdr/educ/edu_tech/edutech.htm)

Reimers,F. (2000), "Oportunidades y Políticas Educativas en Latinoamérica" *Distintas Escuelas, Diferentes Oportunidades*, Reimers, F. (coord.), Alonso,G.S. (tr.), Madrid, Harvard University.

Weitzner, E.J. y Foncesca, Á. (1981), "Evaluación del Rendimiento Escolar en el Sistema Nacional de Telesecundaria", "Evaluación de la Telesecundaria", Montoya, A. y Rebeil, M. (coords.) *Revista Educación*, vol.12, no.38, México, CNTE, pp. 141-151.

World Bank Group's Global ICT Department. (2003), "ICT and MDGs", online,

[http://www.undp.org.in/hdrc/APRI/Rsnl\\_Rsrc/ict\\_mdg\\_wb.pdf](http://www.undp.org.in/hdrc/APRI/Rsnl_Rsrc/ict_mdg_wb.pdf)

#### 日本語文献

高嶋千秋 (2004) 『情報通信技術と社会開発－メキシコの教育に対する可能性と限界』 修士論文, 筑波大学大学院地域研究研究科

三輪千明 (2002) 「ラテンアメリカの教育における公正の概念拡大－その背景と影響について－」 国際開発学会『国際開発研究』第11巻第1号, pp. 21-37.

横関祐美子 (2005) 「中等教育」黒田一雄,横関祐美子編『国際教育開発論』有斐閣

米村明夫 (1986) 『メキシコの教育発展－近代化への挑戦と苦悩－』 アジア経済研究所

\_\_\_\_\_ (編) (2003) 『貧困と教育－メキシコとブラジル－』 アジア経済研究所

## 参考資料

実施期間：2005年3月から6月

実施場所：メキシコ市南部テレセクンダリア9校

## アンケート項目

- 性別 (男・女)
1. 何歳ですか？ ( ) 歳
  2. この学校に入った時、何歳でしたか？ ( ) 歳
  3. どの教科が一番好きですか？ ( )
  4. 家族構成を教えてください。 ( )
  5. 誰と一緒に住んでいますか？ ( )
  6. 父親の職業は何ですか？ ( )
  7. 母親の職業は何ですか？ ( )
  8. 父親の学歴を教えてください。 ( )
  9. 母親の学歴を教えてください。 ( )
  10. どの地区 (colonia) に住んでいますか？  
(メキシコ州の場合はメキシコ州と記入してください) ( )
  11. 家から学校まで何分かかりますか？答えを選んで下さい。  
(1～15分, 16～30分, 31～45分, 46分～1時間, 1時間より多い)
  12. 何を使って学校に來ますか？主要交通手段を1つ選んで下さい。  
(バス, 地下鉄, 徒歩, 自転車, 自家用車)
  13. 家に寝室がいくつありますか？答えを選んで下さい。  
(1/2/3/4/5/5部屋より多い)
  14. 聖書と教科書以外で、家に本が何冊ありますか？答えを選んで下さい。  
(0/1～4/5～10/11～15/16～20/20冊より多い)
  15. この学校入学以前に、別の中学校で勉強したことがありますか？(はい・いいえ)
  - 15'. 他の中学校で勉強したことがある場合、どの種類の学校でしたか？ ( )
  16. どうしてこの学校を選びましたか？1つ選んで下さい。  
( )家が近いから  
( )教育費が他の中学校と較べて安いから  
( )全ての授業でテレビを使用するから  
( )1人の教師が全教科を担当するから  
( )他の中学校で落第したから  
( )その他 ( )
  17. この学校の魅力は何ですか？  
( )テレビプログラム

- 1人の教師が全教科を担当すること
  - 教科書 (guía de aprendizaje, conceptos básicos)
  - 1クラスの人数が少ないこと
  - 他の特徴 ( )
18. 奨学金をもらっていますか? 答えを選んで下さい。(はい・いいえ)
19. 授業後に仕事をしていますか? 答えを選んで下さい。(はい・いいえ)
- 19'. 授業後に仕事をしている場合、何の仕事をしていますか? ( )
20. 卒業したらどうしますか? 答えを選んで下さい。
- 働く
  - 一時的に働き、その後高校で勉強する
  - 高校で勉強する
  - その他の予定 ( )

— 実際のアンケートはスペイン語で実施し、レイアウトも異なる。